

内閣官房内閣人事局  
(労働係 兼 国際係)

石川 由佳

平成25年入省

## PROFILE

Ishikawa Yuka

平成25年10月 総務省採用

統計局統計情報システム課最適化調整係

平成27年 4月 現職

国家公務員の  
人事行政を担う



## とある一週間

## ● 月曜日

ILOで開かれる委員会に向け、他省庁と連絡を取り出張の調整を進めます。

## ● 火曜日

午後は大学教授との意見交換のため、都内の大学キャンパスへ外出。

## ● 水曜日

他省庁からの照会案件（OECD、TPP関係等）を確認し、局内に作業を依頼。

## ● 木曜日

予算など局内照会の作業を仕上げ、提出。その後、国際事務資料集の編集作業。

## ● 金曜日

来月訪日予定のタイ政府対応について、資料作成や段取りなど、準備開始。

## ▶) 世界の事例から気づくこと

内閣官房内閣人事局は、これまで総務省や人事院が担ってきた国家公務員の人事行政等の事務を集約させ、平成26年5月に発足した組織です。国家公務員として働きながら、自身のよりよい働き方について真剣に向き合える職場です。

その中で私は、諸外国制度調査や、国際労働機関（ILO）への対応等について担当しています。特に諸外国制度調査では、調査テーマ・国の選定から、現地調査、報告書の取りまとめまで、一連の業務すべてに携わることができました。自国の制度を検討する上で、海外の制度・実態を把握しておくことはとても大切です。現地調査ではアメリカのワシントンD.C.へ約1週間出張し、人事管理における取組・課題について連邦機関や労働組合にヒアリングを行いました。訪問先の実情を伺い、時には日本の制度について説明をする中で、内閣人事局が所管する業務について広い視点で考えることができるようになり、貴重な経験となりました。

## ▶) 多様性に魅力を感じます

入省直後は総務省統計局に配属され、システムの運営やアプリの開発、統計提供サイトの広報等を通じて、統計を便利に活用してもらうための業務を行ってきました。総務省での業務経験はまだこの1年半しかありませんが、短い期間の中で、各省・自治体の統計担当者に向けた操作研修を開催したり、韓国で開催されたシステム関連の会合に出席したりと、多岐にわたる業務を経験できました。

こうして振り返ってみると、採用説明会や職場で多くの先輩方が「総務省では幅広い業務に携わることができる」とおっしゃっていたことが印象に残っています。今は一つの担当の中でも多くのことを学べたと感じっていますが、総務省にはまだまだ私の知らない仕事がたくさんあると思うと、これからどんなことに携わっていけるのか、とてもワクワクします。

総務省は分野の広さの数だけ人材もバラエティ豊かで、一つの枠に捕らわれることなく働ける、とても魅力的な職場だと思います。



## Private Time

休日は、好きなアーティストのライブに行ったり、友人といろいろな場所に遊びに行ったりと、楽しい時間を過ごしています。先日は、同期のみんなとディズニーリゾートへ行ってきました。思い切り遊んで、はしゃいで、とてもリフレッシュできました。